

# 第4学年 道徳科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

学 級：第4学年〇組（〇名）

場 所：4年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 主題名 本当の友達とは【内容項目 B 友情、信頼】

2 教材名 「絵はがきと切手」（「小学道徳 生きる力 4」 日本文教出版）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について(道徳的価値観)

「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」では、【内容項目 B 相互理解、寛容】について、中学年は「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること」と示されている。

この時期の児童は、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを引き起こすことも少なくない。

そこで、よりよい友達関係を築くためには、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることが大切である。友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成したい。

(2) 価値に関わる児童の実態について(児童観)

本学級の児童は、友達の気持ちを考えて行動したり、友達と一緒に仲良く活動したりすることができるようになってきている反面、失敗したり間違ったりした友達をからかう児童や、気の合う友達であるがゆえに間違いを相手にはっきりと伝えることができない児童の姿が見られる。そこで、友達のことを深く考え、友達を信頼し、友達のために言いにくいことであってもきちんと伝えることが、よりよい友達関係を築いていくうえで大切であることに気付き、学習活動や生活の様々な場面で、友達と互いに認め合い、信頼感や友情を深めていこうとする意欲と態度を育てたい。

(3) 教材について(教材観)

本教材は、主人公のひろ子に、転校した仲よしの正子から料金不足の絵はがきが届き、正子に料金不足であったことを教えるかどうか迷うが、正子なら「きっとわかってくれる」と、友達を信じることの大切さに気付き、手紙を書き始めるという内容である。活用にあたっては、児童が自分の経験を想起しながら、正子に本当のことを伝えるかどうか悩むひろ子の心情について、様々な視点で捉え考えることができるようにし、友達のことをよく理解し、信頼し、助け合って、友達とよりよい関係を築いていこうとする心情や態度を育てたい。

4 児童の成長を促すための評価

(1) 本主題における児童の学びの姿

料金不足を知らせるかについて悩むひろ子の心情を考えることを通して、友達とよりよい関係を築いていくためには、友達の気持ちや立場を想像し、友達のためにどう行動することがよいのか深く考える姿を目指

す。本当の友達とは、表面的な仲のよさだけでなく、互いに注意し合ったり、意見を言ったりすることのできる関係であること、そのためには、互いに理解し、信頼することが大切であることに気づき、さらに友達との信頼感や友情を深めていこうとする意欲や態度につなげたい。

## (2) 学びの姿につながる指導

導入では、事前に実施したアンケートの結果を基に、友達とはどういうものか、今の児童の価値観を話し合うことで、本時で扱う道徳的価値について関心をもつようにする。

本時の展開では、友達の正子から料金不足の絵はがきが届き、そのことを正子に手紙で教えるかどうか悩んでいるひろ子の心情を考える。料金不足を「教える」と「教えない」という対立する考えを黒板の左右に配置し、児童が自分の考えに近い位置にネームカードを貼る活動を取り入れ、児童が、他者の考えと比較しながら、自分の考えを深めることができるようにする。友達の考えを聞いて自分の考えが変わったという児童の意見や、友達の考え方に共感したという児童の意見を取り上げながら、児童同士の学び合いを促すようにする。ひろ子が料金不足を教えることを決めたのは、正子との信頼関係があったからであることに気付かせたい。

本時の終末では、友達と友情を深めるために大切なことについて考える。これまでの自分の友達関係を想起しながら話し合い、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、よりよい関係を築いていくことの大切さを実感させたい。

## (3) 児童の学びの姿についての評価とフィードバック

展開の前半では、ペアや学級全体で話し合う活動において、児童の発言やワークシートの記述等を学習状況として把握する。登場人物の心情を自分との関わりで具体的にイメージし、判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から考えたり、自分とは違う立場や感じ方、考え方を理解したりして、自分の考えを深めている姿が見られたら、座席表に記録し、積極的に認める言葉かけを行う。特に、文章を書くことが苦手な児童に対して、ペアや学級全体での話し合い活動でのつぶやきや表情、態度等に注目して観察する。

展開の後半では、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていく姿を評価した時点で、個別に声をかけて励ましたり、意図的に指名して学級全体に広げたりするなど、積極的に児童へのフィードバックを図る。

本時を振り返る活動では、記述や発言から、これからの自己の生き方について考えている姿を道徳性に係る成長の様子として把握する。よりよい友情関係を築いていくうえで、友達のことを信頼し、助け合うことの大切さを理解し、自分なりの課題を見つけたり、これから自分の生活や生き方に生かしたりしようとしているかという視点を基に、児童の発言やワークシートの記述を評価する。評価したことを基に、個別に声かけをして励ましたり、意図的に指名して学級全体に広げたりし、道徳的価値の理解が深まったという児童の実感につなげたい。

## 5 本時のねらい

料金不足を知らせるかについて悩むひろ子の心情を考えることを通して、よりよい友情関係を築いていくうえで、友達のことを信頼し、助け合うことの大切さに気づき、信頼関係や友情を深めていこうとする態度を育てる。

6 本時の展開

	学習活動・主な発問	予想される児童の思い	教師の支援と評価
導入	<p>1. 事前アンケートを基に、主題について話し合う。</p> <p>○友達とはどんな人のことか。</p>	<p>・いっしょに遊んでくれる人。</p> <p>・困ったときに助けてくれる人。</p>	<p>・事前実施したアンケートの結果を示し、友達についての価値観を話し合うことで、本時の道徳的価値への関心をもてるようにする。</p>
<p>学習のめあて：「本当の友達」とは、どんな友達か考えよう。</p>			
展開	<p>2. 教材「絵はがきと切手」を読んで話し合う。</p> <p>○正子から絵はがきをもらったひろ子はどんな気持ちになっただろうか。</p> <p>○部屋に戻ったひろ子は、どんなことを考えただろうか。</p> <p>◎ひろ子は、どんなことを考えながら正子に手紙を書き始めたのだろうか。（中心発問）</p>	<p>・正子が私のことを考えて絵はがきを送ってくれた気持ちがうれしいな。</p> <p>・正子は大切な友達だ。</p> <p>&lt;料金不足を教えない&gt;</p> <p>・正子が嫌な思いをするから、黙っておく方がよい。</p> <p>・大切な友達だから傷つけない。</p> <p>&lt;料金不足を教える&gt;</p> <p>・正子が他の人にも料金不足の絵はがきを送ってしまうとよくない。</p> <p>・正子は、料金不足のことを教えてほしいと思う。</p> <p>・友達だから、間違っていることを教えた方がよい。</p> <p>・二人は仲良しだから、きっとわたしの思いをわかってくれる。</p> <p>・二人は親友だし、こんなことでくずれてしまう仲ではない。</p>	<p>・絵はがきをもらって喜ぶひろ子に共感することを通して、ひろ子にとって、正子は離れていても友達であることを押さえる。</p> <p>・黒板に貼った児童のネームカードを基に、それぞれの判断の根拠をより明らかにしたり、多様な視点から考えたりできるように、意図的指名や問い返しをする。</p> <div data-bbox="1050 1290 1497 1532" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価（記述・発言）</p> <p>≪視点①≫道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。</p> </div> <div data-bbox="1050 1626 1497 1868" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価（発言）</p> <p>≪視点①≫道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。</p> </div>

	<p>3. 考えを深める。</p> <p>○「本当の友達」とは、どんな人のことだと思うか。</p> <p>○友達との関係をもっとよいものにするために、どんなことが大切だと思うか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間違っていたら教えてくれる。</li> <li>・友達の注意を聞いて、直そうとする。</li> <li>・お互いのことをよく知る。</li> <li>・注意しても分かってくれると友達を信じる。</li> <li>・友達のことを思って行動する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で児童が捉えた友達の価値観と比較することで、考えの深まりや変容を自覚できるようにする。</li> </ul> <p><b>評価</b>(発言)</p> <p>≪視点⑥≫ 道徳的な問題に対して、自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているか。</p>
<p>終末</p>	<p>4. 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは、よくないことをしている友達に注意できなかった。これからは、友達のことを考えて、分かってもらえるように注意したい。</li> <li>・友達と信じ合うことができる関係をつくって、今よりもっと楽しく過ごしたい。</li> </ul>	<p><b>評価</b>(記述・発言)</p> <p>よりよい友情を築いていくうえで、友達のことを信頼し、助け合うことの大切さを理解し、自分なりの課題を見つけたり、これからの自分の生活や生き方に生かしたりしようとしているか。</p>

7 板書計画

第  回

**友達は：**

- ・ いっしょに遊んでくれる。
- ・ 困ったときに助けてくれる。

絵はがきと切手

**「本当の友達」とは、どんな友達か考えよう。**

正子さんから絵はがきをもらったときのひろ子の気持ち

- ・ うれしいな。
- ・ 正子さんに会いたいな。

← 料金不足を教えない。 →

**料金不足を教える**

ひろ子は、どんなことを考えながら正子さんに手紙を書き始めたのでしょうか。

- ・ 二人は仲良しだから、きつとわたしの思いをわかってくれる。
- ・ 二人は親友だし、こんなことでくずれてしまう仲ではない。

**ひろ子は迷ってしまいました。**

- ・ 他の人にも料金不足で送ってしまうとよくないから教えてあげる。
- ・ 料金不足のことを後で知ったら、教えてほしかったと思うだろう。
- ・ 友達のまちがい知らん顔をしているのはよくない。
- ・ 友達だからこそ、まちがっていることは教えてあげた方がよい。

**本当の友達とは：**

- ・ よくないことも教えてあげられる人。
- ・ いいこともいけないことも、言い合える人。
- ・ 自分のいけないことを教えてもらったなら、直そうとする人。

**料金不足を教えない。**

- ・ やっぱりだまっていた方がいい。正子さんにいやな思いをさせるから。
- ・ せっかく送ってくれたのだから、いやな気持ちにさせたくない。
- ・ 不足した料金ぐらい、はらってあげればいい。